

1 1 総合目標

2

総合目標①
健康寿命の延伸 (日常生活に制限のない期間の平均の延伸)

3

4 【望ましい姿】

5 高齢期に至るまでの間に心身の健康が大きく損なわれません。また、たとえ
6 病気になっても重症化や健康障害に至らず、その後も生活機能を維持し続けて
7 います。

8

9 【指標の達成状況及び評価】

指 標		指標の 方向性	パーセント値 (H22)	現状値 (H28)	評価
65 歳健康寿命 (要介護2以上)	男性	延ばす	82.02 歳	82.62 歳	A
	女性		85.14 歳	85.69 歳	

10

11 ○ 65 歳健康寿命（要介護2以上）は、男性で0.60歳、女性で0.55歳増
12 加しています。＜図●＞

13 ○ 同期間における65歳平均余命は、男性で0.59年、女性で0.45年増加
14 していることから、65歳健康寿命（要介護2以上）の増加分は、65歳平
15 均余命のそれを上回っています。＜参考図●＞

16 ○ これらのことを総合的に勘案すると、指標は改善傾向と言えることから、
17 評価をAと判定しました。

18 ○ なお、国の算定する健康寿命¹を用いて全国と都を比較すると、都は、男
19 女ともに全国平均を下回っていますが、伸び率は全国平均と同様に延伸し
20 ています。＜参考図●＞

21

22

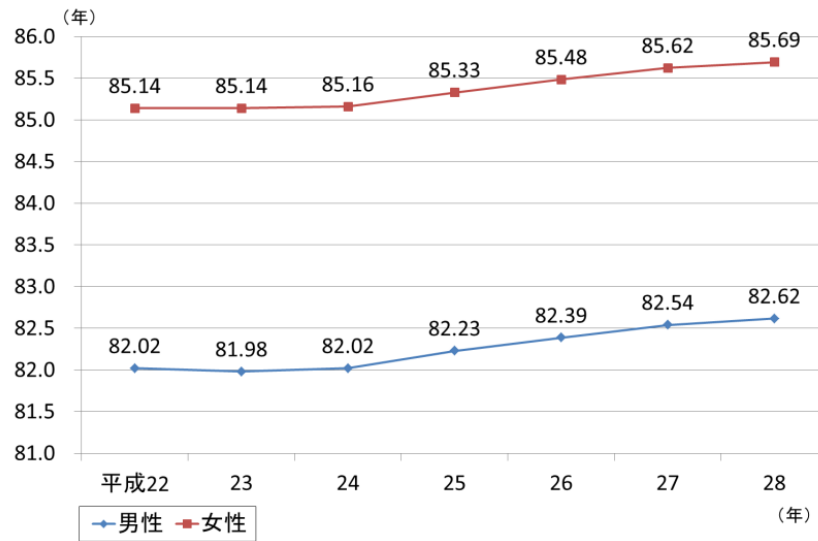
23

24

¹ 国の算定する健康寿命:「健康日本21(第2次)」では、健康寿命を「日常生活に制限のない期間の平均」と定義し、算定に当たっては、国民生活基礎調査と生命表を基礎情報とし、サリバン法(広く用いられている健康寿命の計算法)を用いている。すなわち、国民生活基礎調査における質問の「あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか」に対する「ない」の回答を日常生活に制限なしと定め、性・年齢階級別の日常生活に制限のない者の割合を得る。生命表から定常人口と生存数を得る。性・年齢階級ごとに、定常人口に日常生活に制限のない者の割合を乗じることにより、日常生活に制限のない定常人口を求め、次いで、その年齢階級の合計を生存数で除すことにより、「日常生活に制限のない期間の平均」を得る。

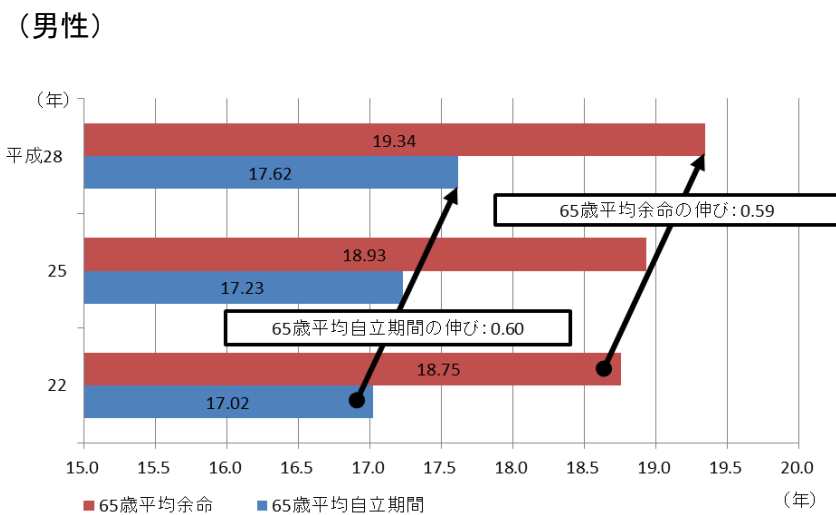
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

<図●> 65歳健康寿命の推移(要介護2以上)(東京都)



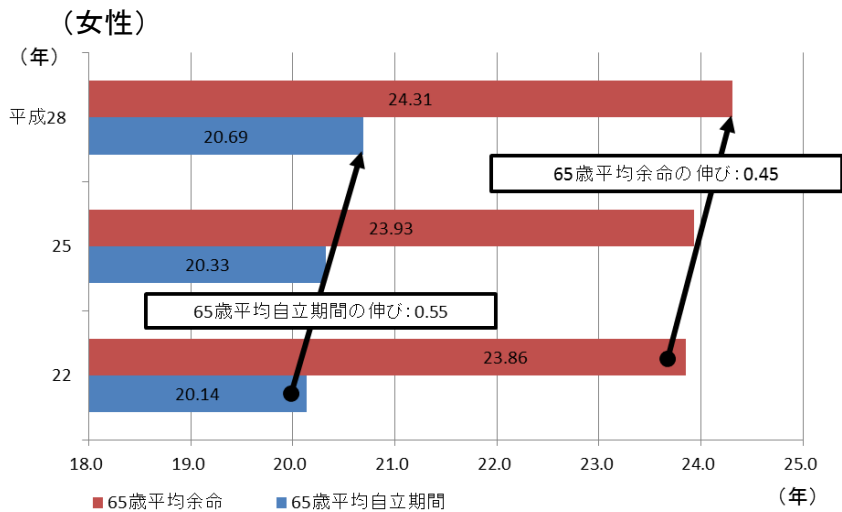
資料:「65歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)

<参考図●> 65歳平均自立期間²(要介護2以上)と、
65歳平均余命³の伸びの比較(東京都)



² 65歳平均自立期間: 要介護(要支援)認定を受けるまでの期間の平均。健康と考える期間。

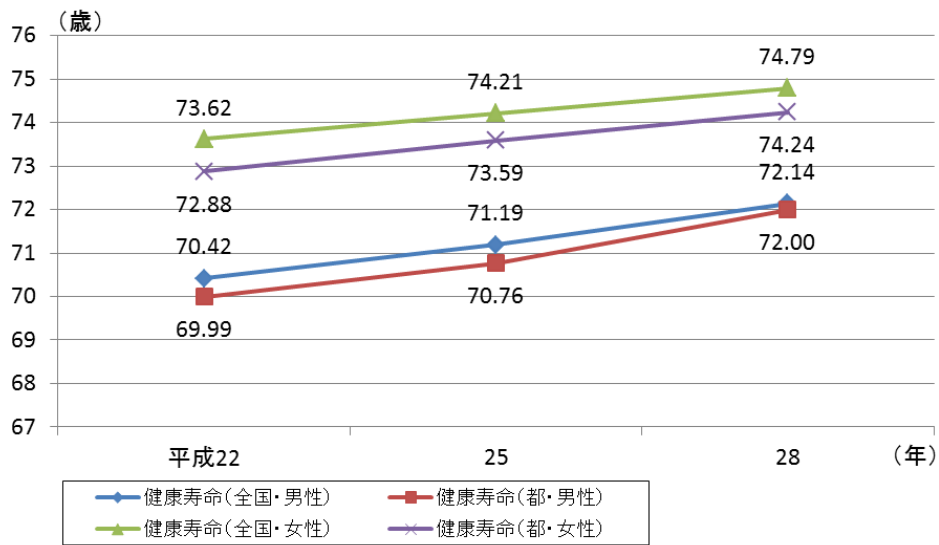
³ 65歳平均余命: 65歳平均自立期間(年) + 65歳平均障害期間(年)(要介護(要支援)認定を受けてから死亡までの期間の平均)



資料:「65歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)

※ 65歳からの年数の比較を行うため、65歳健康寿命の代わりに65歳平均自立期間を比較対象として掲載しています。

<参考図●> 健康寿命の推移(全国・東京都)



資料:厚生労働科学研究費補助金

「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用に関する研究」(厚生労働省)

総合目標②

健康格差の縮小

(日常生活に制限のない期間の平均の区市町村格差の縮小)

1
2
3
4
5
6
7

【望ましい姿】

住民の生活習慣の状況や健康状態、区市町村の健康づくりへの取組状況などについて、区市町村間の違いが把握され、区市町村間の健康格差の縮小に向けて、社会的な健康づくりの機運醸成や環境整備が、全都的に行われています。

【指標の達成状況及び評価】

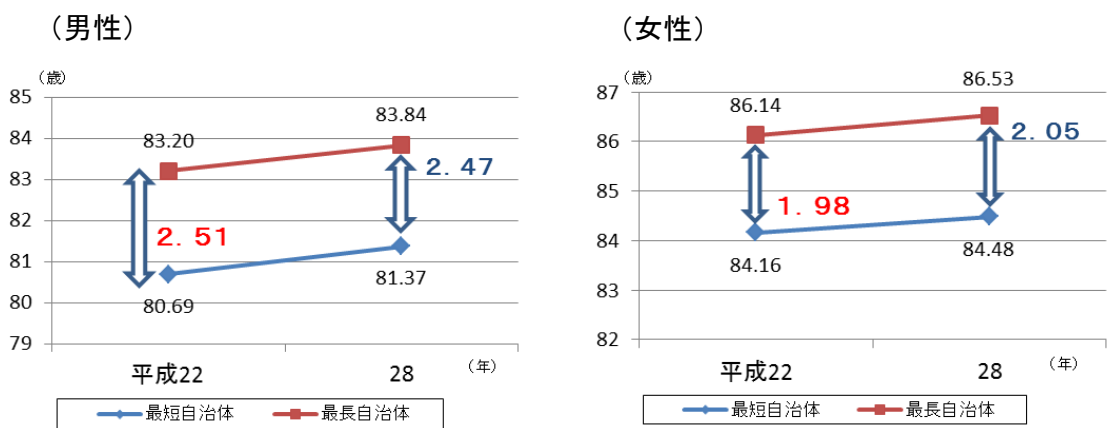
指 標		指標の方向性	ターゲット値 (H22)	現状値 (H28)	評価
区市町村別 65 歳健康寿命の最小値と最大値の差 (要介護2以上)	男性	縮小	2.51	2.47	B
	女性		1.98	2.05	

8
9
10
11
12
13
14
15
16

- 区市町村別の 65 歳健康寿命 (要介護2以上) の最小値と最大値の差は、男性で 0.04 歳縮小し、女性で 0.07 歳拡大しています。<図●>
- また、集団のばらつきを表す標準偏差⁴を用いて、区市町村間の 65 歳健康寿命 (要介護2以上) の分布をみると、男性は不変、女性は 0.01 歳縮小しています。<参考図●>
- これらのことを総合的に勘案すると、指標は概ね不変と言えることから、評価を B と判定しました。

<図●> 65 歳健康寿命 最長自治体と最短自治体の差 (要介護2以上) (東京都)

17
18



19

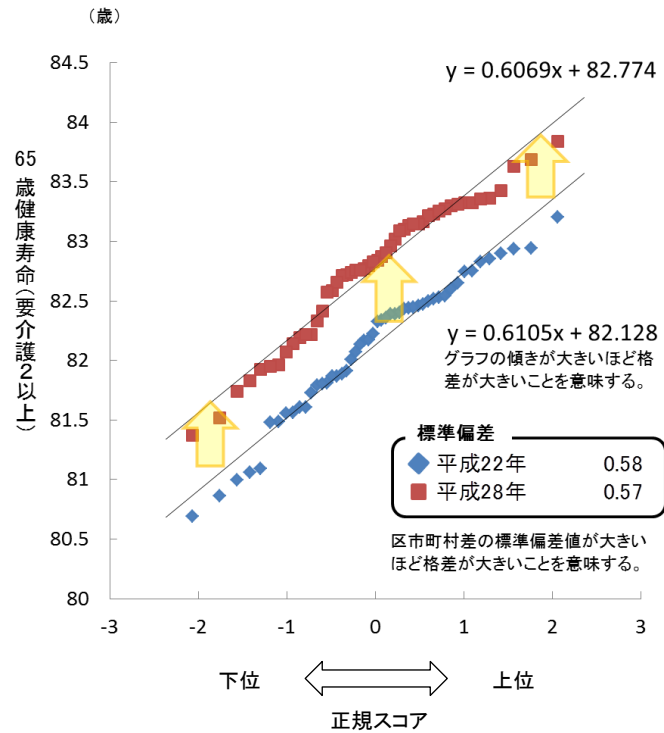
20

資料:「65 歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)

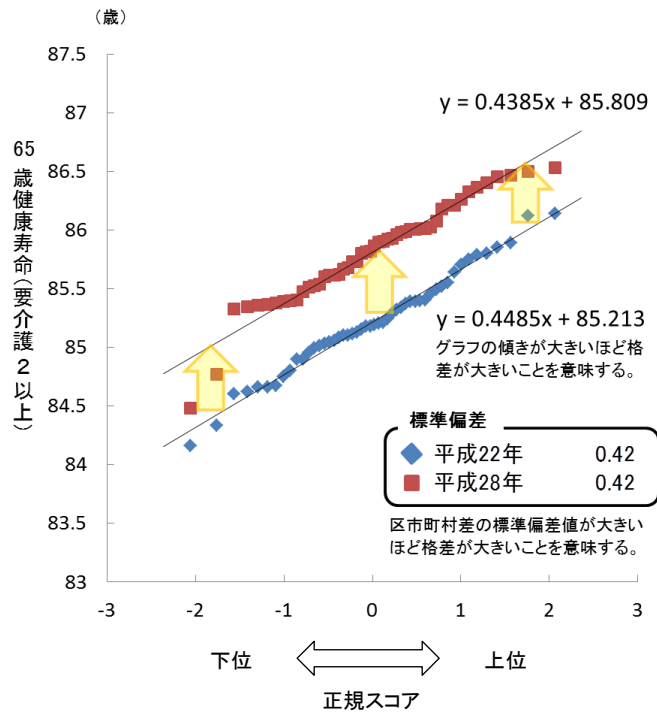
⁴ 標準偏差: 日本工業規格では、分散の正の平方根と定義している。データや確率変数の散らばり具合 (ばらつき) を表す数値のひとつ。

<参考図●>区市町村別 65 歳健康寿命の分布の推移(要介護2以上)(東京都)

(男性)



(女性)



資料:「65 歳健康寿命(東京保健所長会方式)」(東京都福祉保健局)